

日本語教育機関

自己点検・評価報告書

令和6年4月1日

点検・評価項目

【理念】

グローバル化に伴い、国際間での人間交流など、世界規模での結びつきが深くなってきております。そういった情勢の中、日本の様々な技術や文化を学びたい、そして自らのスキルアップを目標として留学を希望する人々が増えてまいりました。様々な夢や目標を抱え、日本に留学を希望する人々の難関は、「言葉の壁」だと思えます。現在ではAIの技術等が著しく発展し、機械を通じた翻訳等で言語が異なる者たちでもコミュニケーションを図ることが出来ていますが、機械を介さず、対人でのコミュニケーションでしか生まれられない良好なコミュニケーションがあるかと思えます。当学院と致しましては、このような向上心、向学心に燃える学生達に、「言葉の壁」に挫折することなく日本語を学習・習得して頂き、日本の高度な技術力を習得することの他に、日本の文化を理解する為の一助になりたいと考えております。

【教育目標】

日本語能力試験 N1 認定レベルまでの教育を目標とし、また、日本の大学や高等専門学校などへ進学を希望する学生においては、進学先に応じて積極的に試験を受験さ

せ、受験科目の日本語を必須科目として進学コースカリキュラムに加えて学習できるようにします。

【育成する人材像】

様々な国から留学してくる学生に対して自国と異なる文化等で苦勞や戸惑いがあると思うが、日本で生活するうえで学生自身が苦勞することが無いよう日本のルールや規則・法律等を理解し守ることができる学生

1.教育の理念・目標	
1.1 教育理念が明確である	A
1.2 教育目標が明確である	A
1.3 育成する人材像が明確である	A
2.学校運営	
2.1 日本語教育機関の告示基準に適合している	A
2.2 教育理念や目標に沿った運営方針や事業計画が策定されている	A
2.3 組織運営・人事管理・財務管理に関する規定が整備されている	A
2.4 コンプライアンス体制が整備されている	A
3.教育活動	
3.1 教育理念等に沿った教育課程が編成されている	B
3.2 生徒が到達すべき日本語能力の目標が明示されている	A

3.3 成績評価や進級・修了の判断基準が明確である	A
3.4 教員の指導力向上・教育課程改善のための取組が行われている	A
4.学習成果	
4.1 生徒の日本語能力の向上が図られている	A
4.2 生徒の日本語能力が機関が定める目標に到達している	B
4.3 生徒の進路を適切に把握している	A
5.生徒支援	
5.1 学習相談や進路に対する支援が体制が整備されている	A
5.2 健康管理や生活指導などへの支援体制が整備されている	A
5.3 防災や緊急時における体制が整備されている	A
6.教育環境	
6.1 日本語教育機関の施設・設備が十分かつ安全に整備されている	A
6.2 目標達成のために適切な教材を選定している	A
6.3 学習効率を図るための環境整備がなされている	A
7.入学者の募集	
7.1 入学者の募集が適切に行われている	A
7.2 入学募集の際に学校情報が正確に伝えられている	A
7.3 授業料等の料金が適切である	A

8.財務	
8.1 中長期的に財務基盤が安定している	A
8.2 予算・収支計画が有効かつ妥当である	A
8.3 財務について会計監査が適切である	A
8.4 財務情報の公開体制が整っている	A
9.法令順守	
9.1 各種法令の遵守と適切な運営が行われている	A
9.2 個人情報保護の取組が行われている	A
9.3 自己点検・評価の実施を行い、改善にも努めている	A
9.4 自己点検の公開を行っている	A
10.地域貢献・社会貢献	
10.1 日本語教育機関の資源や施設を活用し社会貢献・地域貢献を行っている	A
10.2 生徒のボランティア活動への支援、公開講座等の実施等の取組を行っている	B

評価方法 ・A：達成している、あるいはほぼ達成している。

・B：一部未達成ではあるが達成に向けて取組んでいる。

・C：達成されていないあるいは適合していない。